

2023年度

事業報告

自：2023年4月 1日

至：2024年3月31日

公益財団法人 京都技術科学センター

2023年度事業報告

I 公益目的事業1（研究助成事業）

技術立国日本を支える科学技術の振興を図るため、若手研究者が行う研究開発に必要な資金を助成するとともに、次年度の助成対象者を募集し、選考した。

1 2023年度研究開発助成金の交付

2022年度第2回定時理事会で決定した研究開発助成対象者に対して、研究開発に必要な資金を助成した。

- (1) 助成対象者 近畿地方及びその周辺地域（富山県、石川県、福井県、三重県、中国地方及び四国地方）の大学等に所属する40歳未満の研究者
- (2) 助成対象分野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、材料、機械、電気電子の各技術分野に属するもの
- (3) 助成件数 16件（一覧表は下記のとおり。応募件数は55件）
- (4) 助成金総額 1,600万円
- (5) 研究期間 2023年4月から2024年3月までの1年間（原則）

2023年度研究開発助成テーマ等一覧表

No.	研究開発助成テーマ	助成金交付者			助成額 (万円)
		所属	役職等	氏名	
1	ヘテロトリプチセン類の合成と錯形成、及び光機能の開拓	関西学院大学生命環境学部環境応用化学科	助教 博士(工学)	井上 僚	100
2	偏斜照明による伝搬型表面プラズモン共鳴を利用した無標識粒径計測デバイスの開発	関西学院大学生命環境学部環境応用化学科	講師 博士(工学)	名和 靖矩	100
3	光を駆動力とした革新的な金属錯体ナノワイヤ構築手法の確立	大阪工業大学工学部 応用化学科	特任准教授 博士(理学)	平原 将也	100
4	高温特性に優れる新規希土類磁石の調製および高磁力を発現する微細構造の解析	立命館大学理工学部 機械工学科	助教 博士(工学)	久野 智子	100
5	物理特性を持つAIを用いたFe基超合金の多軸非比例負荷におけるクリープ疲労余寿命評価方法の構築	立命館大学理工学部 機械工学科	助教 博士(工学)	何 磊	100
6	低RAショットキートンネル接合電極を用いた次世代GaNスピンドバイスの創成	大阪大学大学院基礎工学研究科附属スピントロニクス学術連携研究教育センター	准教授 博士(工学)	山田 晋也	100

7	マグネシウム二次電池負極用金属被覆炭素材料の開発	兵庫県立大学大学院工学研究科応用化学専攻	特任助教 博士(工学)	稲生 朱音	100
8	マクロ・メソ階層的多孔質金属触媒の細孔構造制御	兵庫県立大学大学院工学研究科化学工学専攻	准教授 博士(工学)	野崎 安衣	100
9	発光型太陽光集光器への応用を指向した非着色可視域発光有機材料の開発	京都工芸繊維大学分子化学系	講師 博士(工学)	櫻井 庸明	100
10	誘電体に対する電磁誘導試験のき裂の検出原理の解明	京都大学大学院工学研究科機械理工学専攻	助教 博士(工学)	松永 航	100
11	ニトロアルカンの還元的ホモログ化反応の創出	京都大学大学院工学研究科材料化学専攻	助教 博士(理学)	大澤 歩	100
12	固相光反応を駆動力とするナノレベル高輝度パターンニング技術の開発	徳島大学大学院社会産業理工学研究部理工学域応用化学系	准教授 博士(工学)	八木下史敏	100
13	空軌道の集積化を鍵とする有機電子材料の開発	大阪大学産業科学研究所	助教 博士(理学)	安藤 直紀	100
14	細胞内の過酸化水素を可視化するTurn-On型蛍光プローブ分子の開発	高知大学教育研究部総合科学系複合領域科学部門	助教 博士(工学)	越智 里香	100
15	ライブセルイメージングを可能とするテーラーメイド型生体内分子センサーの開発	大阪公立大学大学院理学研究科化学専攻	講師 博士(薬学)	中山 淳	100
16	常温・常圧におけるCO ₂ のプロトン伝導性ハイブリッド材料への変換手法の開発	京都大学高等研究院物質-細胞統合システム拠点	特定助教 博士(工学)	門田健太郎	100

2 2024年度研究開発助成対象者の募集及び選考

2024年度助成対象者を募集し、2024年2月17日(土)に開催した研究助成選考委員会で選考の上、2023年度第2回定時理事会において決定した。

- (1) 助成対象者 近畿地方及びその周辺地域(富山県、石川県、福井県、三重県、中国地方及び四国地方)の大学等に所属する40歳未満の研究者
- (2) 助成対象分野 ものづくりに資する基礎的・応用的研究であって、材料、機械、電気電子の各技術分野に属するもの
- (3) 募集期間 2023年12月1日から2023年12月18日まで
- (4) 応募者数 35人
- (5) 助成対象者数 17人
- (6) 助成金総額 1,685万円

II 公益目的事業2（人材育成事業）

科学技術の振興を担う人材を育成する事業を行った。

1 技術セミナー

(1) ものづくり先端技術セミナー

ものづくり技術開発の高度化を促進することを目的に、先端技術シーズや研究開発の最前線の状況を紹介するセミナーを開催した。

- ア 名称 2023年度ものづくり先端技術セミナー
イ 主催 京都府中小企業技術センター
公益財団法人京都技術科学センター
ウ 開催日 2023年12月15日（金） 13:00～17:30
エ 方法 会場（京都府産業支援センター5階研修室）とオンラインの併用
オ テーマ 「テラヘルツテクノロジー2023～Beyond 5G時代を見据えた材料開発の最前線と応用～」
カ 受講料 無料
キ 内容

項目	内容
基調講演	「テラヘルツセンシングの応用可能性と展望」 理化学研究所光量子工学研究センター教授 大谷 知行 氏
講演①	「らせん藻から THz 吸収マイクロコイル材料」 同志社大学理工学部特別客員教授 彌田 智一 氏
講演②	「テラヘルツで過去の水侵入履歴を可視化」 横河電機株式会社マーケティング部 岡田 修平 氏
講演③	「テラヘルツ分光装置の今とこれから」 株式会社アドバンテスト新事業推進室 加藤 英志 氏

- ク 参加者 102人（会場32人、オンライン70人）

2 技術研究会

(1) ものづくり分析評価技術研究会

分光分析に関する系統的かつ高度な知識とノウハウを兼ね備えたものづくり技術者の育成を支援する研究会を開催した。

発足5年目となる2023年度は、薬品・食品・化粧品・プラスチック・工業材料などの品質管理や評価技術として近年注目されている『近赤外分光法』をテーマに開催した。

- ア 名称 2023年度ものづくり分析評価技術研究会
イ 主催 京都府中小企業技術センター
公益財団法人京都技術科学センター
ウ 方法 会場（京都府産業支援センター5階交流サロン）とオンラインの併用
エ 参加者 関連企業の技術者・研究者 24社38人
オ 会費 年額5,000円/人
カ 内容

例会等	日時	内容
第1回	10月24日(火)	講演：「近赤外分光の基礎」 関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏 講演：「振動分光法」 近畿大学工学部准教授 森澤 勇介 氏
第2回	11月13日(月)	講演：「近赤外分光装置について」 株式会社右近工舎代表取締役 右近 寿一郎 氏 講演：「近赤外分光法の実験方法と注意点」 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門分析評価グループ長 池羽田 晶文 氏 講演：「近赤外分光イメージング」 島根大学戦略的研究推進センター助教 石垣 美歌 氏
第3回	12月5日(火)	講演：「スペクトル解析入門」 関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏 講演：「ケモメトリックスと機械学習」 国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター 化学材料評価グループ 研究グループ長 新澤 英之 氏 講演：「Python を用いたスペクトル解析」 大阪電気通信大学工学部教授 森田 成昭 氏
特別セミナー	2月7日(水)	<p>■開催方法 会場(京都府産業支援センター5階会議室とオンライン)の併用</p> <p>■プログラム</p> <p>はじめに： 関西学院大学名誉教授・フェロー 尾崎 幸洋 氏 基調講演：「近赤外分光法の現状と将来」 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 食品研究部門分析評価グループ長 池羽田晶文 氏 講演①：「高強度 Time-stretch 分光装置を用いた低透過率試料の高速近赤外分光測定」 ウシオ電機株式会社 五十嵐 彩 氏 講演②：「FT-IR の観点から見た近赤外分光装置とアプリケーション」 株式会社日本分光 田村 耕平 氏 講演③：「半導体製造プロセスにおける近赤外分光法の活用」 株式会社堀場アドバンスドテクノ 斧田 拓也 氏 講演④：「近赤外分光法による食品分析(食肉・魚)」 株式会社相馬光学 大倉 力 氏 講演⑤：「細胞培養プロセスのインライン近赤外分光測定」 横河電機株式会社 中村 幸弘 氏 講演⑥：「医薬品製造工程に用いられる NIR 測定事例並びに統合連携システム構築」 株式会社クオリティデザイン 佐藤 貴哉 氏 総合討論： 尾崎 幸洋 氏、池羽田 晶文 氏、 株式会社右近工舎代表取締役 右近 寿一郎 氏</p> <p>■参加者 127人(会場54人、オンライン73人)</p>

※開催時間は、いずれも13:00~17:00(特別セミナーは13:00~17:20)

(2) 品質工学研究会

関西品質工学研究会との共催で、品質工学に関するシンポジウムを開催した。

ア 名称	品質工学シンポジウム2023
イ 主催	関西品質工学研究会
ウ 共催	公益財団法人京都技術科学センター 中部、滋賀県、広島各品質工学研究会
エ 日時	2023年10月6日(金) 10:00~17:00
オ 方法	会場(日刊工業新聞社西日本支社会議室)とオンラインの併用
カ テーマ	「品質工学の本質を探る~MBSE/MBDとの融合による損失低減~」
キ 内容	

項目	内容
基調講演	「システム・デザインにおけるアーキテクチャとマネジメント」 東京大学大学院工学研究科人工物工学研究センター 青山 和浩 氏
招待講演	「田口の実験計画法によるスラスト軸受の熱処理条件最適化と新しい特性値の探求」 日本精工株式会社 萩原 信行 氏
事例発表	「機械学習モデルを用いたグリッドサーチ機能性評価によるロバスト最適解探索」 ローム株式会社 山中 貴光 氏 「制御因子間の交互作用によるロバスト性の向上」 TM実践塾 芝野 広志 氏 「複数の創造技法連携活用によるMEMSプロセス技術開発」 株式会社リコー 江面 大河 氏 「マツダ車両開発における社会損失低減~その2」 マツダ株式会社 武重 伸秀 氏

ク 参加者 136人(会場40人、オンライン96人)

3 テクノアイデアコンテスト

将来の産業・科学技術の発展を担うベンチャー精神に富んだ起業家や柔軟でユニークな発想を持つ研究者を育成するため、科学技術やものづくりへの関心を高める取組の一環として、高校生や大学生等を対象に、技術に関する独創的なアイデアを募集し、書類審査の通過者を対象にコンテスト(最終審査)を行い、優れたアイデアを表彰した。

(1) 主催等

ア 名称	テクノ愛2023
イ 主催	テクノ愛実行委員会
ウ 共催	公益財団法人京都技術科学センター 京都大学産官学連携本部
エ 後援	文部科学省、近畿経済産業局、京都府教育委員会、京都市教育委員会、NHK京都放送局、国立研究開発法人科学技術振興機構、一般社団法人日本ベンチャー学会、関西ベンチャー学会
オ 協賛	大阪大学共創機構、神戸大学産官学連携本部、京都工芸繊維大学産学公連携推進センター、大阪電気通信大学、関西サイエンス・フォーラム

(2) 募集等

- ア 募集対象 高校の部：高校生、高等専門学校1～3年生
大学の部：大学生、大学院生、高等専門学校4・5年生、専攻科生等
- イ 募集期間 2023年8月1日～2023年9月11日
- ウ 応募状況 高校の部 25校、229件（学校所在地：青森県～沖縄県の16都府県）
大学の部 18校、64件（学校所在地：北海道～沖縄県の14都道府県）

(3) 書類審査

- ア 選考委員による書類審査で、コンテストに進む高校の部、大学の部それぞれ9テーマを選考した。
- イ 上記以外のテーマのうち、書類審査で健闘したと認められた高校の部16テーマ、大学の部12テーマに対し、コンテスト当日の審査で健闘賞を授与することを決定した。

(4) コンテスト等の開催

書類審査で選考された18テーマについてコンテスト（プレゼンテーションと最終審査）を行うとともに、特許相談及び交流会を開催した。

- ア 日時 2023年11月23日（木・祝日） 9：15～16：50
- イ 場所 コンテスト：京都大学国際科学イノベーション棟 シンポジウムホール
交流会：京都大学国際科学イノベーション棟 ホワイエ
- ウ 入賞 高校の部：グランプリ1件、準グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞6件
大学の部：グランプリ1件、準グランプリ1件、優秀賞1件、奨励賞6件
総合の部：テクノ愛賞1件
※入賞者は、下記一覧表のとおり
- エ 特許相談 特許の出願方法等に係る相談
- オ 参加者 113名

テクノ愛2023入賞テーマ等一覧表

<高校の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
グランプリ	未来の海洋ナビゲーション：革新的離岸流発生予測システムの研究開発	沖縄工業高等専門学校	吉井 慈恩 仲宗根由弥 又吉 竜輝 西川 七音 長嶺真太郎
準グランプリ	変則的ミスト噴霧システムによる超節水栽培	青森県立名久井農業高等学校	赤石 紫音 大坊 隆司 沼畑明日夢 松坂 泰誠 白鳥 滉弥 小泉 涼花 夏堀竜之介 中居くらら 鈴木 奨梧 平山 昊也
優秀賞	シリコーンゴム膜の溶質の透過性について	東京都立多摩科学技術高等学校	和田 蔵胤 高橋芽泉斗 松原 諒典 大塚 琥正
奨励賞	多様な炭素材料が分散した固形墨の作成	奈良県立西和清陵高等学校	吉岡 歩環 卯川愛里紗 久保田桜子

奨励賞	一重項酸素の発光を利用した食品中のポリフェノールの簡易測定法の開発	大阪桐蔭高等学校	川崎 綾真 尾崎 可和 増田 優
	Soy プラ ～大豆から作るプラスチック～	岡山県立玉島高等学校	池田 直生 相木 大陸 黒瀬 海馳 松本 雄涼 瀧口 乃愛 船越 彩那 丸尾 侑奈
	足跡を可視化する装置の開発	山口県立徳山高等学校	宇野 康介 中本 昊汰
	じゃぐっち	山口県立徳山高等学校	佐藤 貴埜 山本 夏穂
	エコで安価に宇宙を目指せII ～糖を用いたロケットエンジンの開発～	兵庫県立洲本高等学校	眞野 海凜 中川 裕太 木戸 沙織 宇根 良賢 北川 倖成 高島 優摩 前川 瑞葵 東條 翔摩

備考 奨励賞は、発表順

<大学の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
グランプリ	視覚障害者向け革新的デバイス どこ点シェーズの開発	沖縄工業高等専門学校	新里 佑介 新里 察得 平良 俊樹 伊波 天
準グランプリ	新型モビリティ開発に向けたホバークラフトの自己位置安定化と姿勢制御に関する研究	愛知県立愛知総合工科高等学校専攻科	大橋 広怜 平野 瑠貴 岡川 亜月樹 後藤 優汰
優秀賞	傘の置き忘れ防止装置の開発	津山工業高等専門学校専攻科	筆保 光里 下山 朗弘 藤沢 良介
奨励賞	要介護者の遠隔見守りサポート	大阪電気通信大学	藤井 龍希
	脳や三半規管の不調をスマホで確認	富山県立大学	高橋 昂也 重 昂輝 小林 将 李 喆
	日本在来種「ニホンミツバチ」を守り増やす巣箱	大阪電気通信大学	下出 拓実 植村 陸叶 植村 海叶 大牟禮尚也 片井 悠太 升村 航大
	パルス電解処理を用いた高健康機能性シソジュースの開発	大阪電気通信大学	中村 優斗 布沢 圭吾 吉川なごみ

奨励賞	硬軟層を有する振動低減マット	富山県立大学大学院	武田 尚恭 井上 達哉 福埜 光一 清瀧 亮
	neuro pick 「脳波で選ぶ、わたしの香り」	名古屋工業大学	船曳 陸斗 小川 紗矢

備考 奨励賞は、発表順

<テクノ愛賞>

賞名	テーマ	学校名	氏名
テクノ愛賞	Soy プラ ～大豆から作るプラスチック～	岡山県立玉島高等学校	池田 直生 相木 大陸 黒瀬 海馳 松本 雄涼 瀧口 乃愛 船越 彩那 丸尾 侑奈

健闘賞受賞テーマ等一覧表

<高校の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
健闘賞	京都くいず双六	京都市立京都工学院高等学校	伊砂 和奏 久保田直樹 下川路龍希
	Dilatancy ～実用可能な流体を目指して～	茨城県立水戸第二高等学校	高岡 亜衣 坪 花夏 補永 亜唯
	振動するオブジェ「Slow Dance modoki」	祐誠高等学校	宮崎 鈴奈 岡 姫乃
	日本語で条件を整理できる教育用図web アプリケーション及びその汎用的な内部プログラム	京都市立堀川高等学校	橋本航太郎
	展示教材（リニアモーターカー）の製作	富山県立魚津工業高等学校	舟本 光毅 窪田 駿人 織田 颯真 島澤 桜太 森 友人
	LEND	愛知県立豊川工科高等学校	峯田 大志
	教育現場の課題解決に向けてロボットを活用した教育体制の構築～みんな・誰でもできる垣根のないインクルーシブ・プログラミング教育～	追手門学院大手前高等学校	古本 美月 小林 春貴 高山 大海
	自律性視覚障がい者誘導用ブロック型ドローン「先駆け」	愛媛県立宇和島東高等学校	森竹 一景
	洗濯に新しい選択を	和歌山工業高等専門学校	岸 直輝
	救助支援ロボット「スリジエ」	京都市立西京高等学校	木原瑚々美 飯山 瑞樹
	腕時計型溺水警報器	賢明学院高等学校	中本 陽乃
	信号機と連携する自動運転技術の開発	片山学園高等学校	高見 哲也
	サンシェード型ソーラーパネル充電バッテリー	兵庫県立須磨友が丘高等学校	光 高史

健闘賞	家でも作れる！デリシャスセーフティな ICEBOX	郁文館グローバル高等学校	並木 寧々 藏田 幸千
	ラクめし〜ラクしてレンジでシェフになろう 〜	近畿大学附属豊岡高等学校	田口 汐織 川田 杏 小柴結依子 西谷実日子
	ポケットで充電！ガジェットパンツ	松江工業高等専門学校	佐藤 太一

<大学の部>

賞名	テーマ	学校名	氏名
健闘賞	「化学的プロセスにおけるキムワイプの環境 社会的還元性」	明治薬科大学	江崎 文彦
	席取座衛門 せきとりざえもん	阪南大学	三戸一輝 二宮古都音 東 優介
	ドローンによる3Dモデリング製作システム	福山大学	山田 幸輝
	眼鏡側面からの紫外線をブロックする「ライ トガード」	北九州市立大学	山本倫太郎 梅林 篤史 花田 雅行
	システム開発におけるチーム結成に特化した AI「Syshelp」の提案	京都橘大学	武田 阜希 辻本 真優 新鷲 侑亮 浦上 紘一
	メニスカスを利用したハイドロゲル成形	大阪大学	神谷 優樹
	人工アフロ衛星	公立千歳科学技術大学大学院	山田 怜央
	フードロス削減〜おからの可能性〜	福井大学	奥林 賢治
	深層学習を用いて番組中のCM 検出精度向上！	岡山県立大学	室井 遥翔
	愛犬の異変にいち早く察知！	武庫川女子大学	吉田 朱里
	宇宙でも使えるマニキュアの開発	東京理科大学	佐野 響子
	CNNモデルによる朝顔の病気の種類判定	宇部工業高等専門学校	中村 美月

(5) 委員会開催状況

ア テクノ愛実行委員会

開催年月日	開催場所	主な議題
第1回 2023年7月21日	(書面会議)	1 実行委員会委員長の選任について 2 テクノ愛2023開催要領について
第2回 2023年11月23日	京都大学	1 テクノ愛2024の開催日程等について

イ テクノ愛選考委員会

開催年月日	開催場所	主な議題
第1回 2023年9月12日 ～10月10日	(書類審査)	1 テクノ愛2023書類審査について
第2回 2023年11月23日	京都大学	1 テクノ愛2023最終審査について 2 テクノ愛2023健闘賞の選考について

4 科学館・技術館訪問研修

中学生及び高校生の科学技術への関心を高めるため、夏休み期間を利用して、高い技術を有する企業を訪問し、研修会を開催した。

- (1) 名称 2023年度科学館・技術館訪問研修
- (2) 主催 公益財団法人京都技術科学センター
- (3) 後援 近畿経済産業局、京都府教育委員会、京都市教育委員会
- (4) 日時 2023年8月8日(火) 13:30~15:40
- (5) 場所 株式会社東レリサーチセンター滋賀事業所 (大津市園山 3-2-11)
東レ株式会社滋賀事業場 (大津市園山 1-1-1)
- (6) 参加者 中学生・高校生及び教員等 44人
- (7) 参加費 無料
- (8) 内容 企業等からの依頼を受けて各種分析を行っている株式会社東レリサーチセンターと、炭素繊維複合材料で世界トップの実績を誇る東レ株式会社を訪問した。
東レリサーチセンターでは、4班に分かれ、電子顕微鏡等を使った極微小領域の繊維等の観察、プラスチックの強度を測定する引張試験、プラズマを用いた無機元素の分析等、実際に分析を行っている現場で、研究員の説明を受けながら見学した。

東レ株式会社では、1926年にレーヨン系の生産会社としてスタートした同社が、基礎素材メーカーとして、創業時の繊維に加えて、樹脂、ケミカル、フィルム、さらには炭素繊維複合材料、電子情報材料、医薬・医療、水処理・環境等、様々な分野において数多くの先端材料や高付加価値製品を創出してきたことを展示・解説しているイノベーションプラザを見学した。

この研修を通じて、「中学生・高校生の科学技術への関心を高め、わが国の産業の発展に寄与する」という所期の目的を達成することができた。

5 おもしろサイエンス

小学生を対象に、科学実験・工作イベントを通じて学び・知り・作ることの喜び、楽しさを体験し、科学への関心や理解を深める実験教室を開催した。

(1) 主催等

- ア 主催 公益財団法人京都技術科学センター
- イ 後援 京都府教育委員会、京都市教育委員会
- ウ 協力 サイエンスEネット (川村康文東京理科大学教授ほか)

(2) 開催状況

ア 名称、開催日時、参加者等

名称	開催日	応募者	参加者(小学生)	
			午前の部	午後の部
夏の実験教室	2023年 7月22日(土)	107人	16人	16人
冬の実験教室	2023年 12月23日(土)	84人	16人	15人
春の実験教室	2024年 3月16日(土)	78人	16人	16人

午前の部 11:00~12:00 午後の部 14:00~15:00

- イ 場所 京都技術科学センター1階 B会議室
- ウ テーマ 「リニアモーターカーを走らせよう！」
- エ 参加費 無料

オ プログラム 川村康文東京理科大学教授からリニアモーターカーの仕組みについて解説の後、真鍮棒によりレールを作り、これを電源となる電池とつなぎ、レールの上に置いた真鍮棒2本に紙製の電車を乗せて走らせた。その後、電磁力とフレミングの左手の法則についての説明があった。
なお、保護者も会場に入って見学した。

6 科学技術情報等提供

ホームページ（HP）を活用し、当センターが実施する事業に関する情報を提供し、応募者や参加者の拡大を図った。また、研究開発助成テーマ、テクノアイデアコンテストの入賞アイデア等を掲載し、啓発に努めた。その他、当センターの沿革・概要、事業計画・事業報告、収支予算・決算状況等をHPに掲載した。

Ⅲ 収益事業

当センターが所有する建物・土地を事務室、研究（開発）室、倉庫、収納庫及び駐車場として賃貸するとともに、会議室を貸し出し、その収益を公益目的事業の実施に活用した。

1 施設の賃貸

(1) 利用者増加の取組

貸室の空き情報を当センターのHPで広報するとともに、この間整備した研究開発室等への入居を促進するとともに、新たな貸室の整備等を行った。

ア 2022年度に整備したB20号室、B21号室等への入居を促進

イ 長年空室となっていた地階旧JST研究室群（B23号室、B24号室、B28号室、B29号室、B29-1号室等）の改修についてリージョナルフィッシュ株式会社と協議し、2023年度に同社の費用負担で改修

ウ 地階旧東書庫を2024年度に研究開発室2室に改修する方針を決定

エ 入居者の退居に伴い、11号室、13号室、B8号室、B13号室を改修

オ その他の貸室の照明、エアコン、電気設備等を改修

(2) 利用状況（ア～ウは、2024年3月31日現在）

ア 事務室・研究室・倉庫の利用室数	58室	(2022年度	52室)
イ 収納庫使用室数	16室	(同	15室)
ウ 駐車場使用台数	43台	(同	43台)
エ 会議室利用件数	74件	(同	76件)

2 建物・設備等の管理

(1) 改修工事

ア 給排水設備更新等工事

a 給水管・流し台更新工事（継続事業）

老朽化している鋼管製の給水管を塩ビ管に更新する工事を2022年度から行っているが、2023年度は、建物内の未施工区間の給水管を更新するとともに、1階の東西炊事場にある流し台を電気温水器付き流し台に更新する工事を実施した。

（設備投資 4,669,300 円 大規模修繕費 174,000 円 合計 4,843,300 円）

- b 雑排水管(主管)及び雑排水ポンプ更新工事(マンハイム鴨川管理組合との共同事業)
経年劣化により錆付き・つまり等が顕著な鋼管製の雑排水管(主管)を塩ビ管に更新する工事を2023年度から2箇年計画で実施することとし、2023年度は、建物の東端から西側雑排水槽に至る約80mの区間を更新した。

(設備投資 1,309,500円 大規模修繕費 360,850円 合計 1,670,350円)

また、地階機械室内にある雑排水ポンプ(2002年製)が故障したため、更新する工事を実施した。

(設備投資 1,167,000円 大規模修繕費 115,000円 合計 1,282,000円)

c 排水管更新等工事

建物北側ドライエリアに吹き込んだ雨水を排水する鋼管製の排水管を塩ビ管製に更新する工事、地階東書庫に排水管を造設する工事、旧空調配管等を撤去する工事を実施した。(設備投資 378,000円 大規模修繕費 549,300円 合計 927,300円)

イ 貸室改修工事

入居者の退居に伴い、次の貸室の改修を行った。

- a 1階11号室 防音内窓造設、壁塗装、ブラインド設置
(設備投資 147,000円 大規模修繕費 213,000円 合計 360,000円)
- b 1階13号室等 防音内窓造設、壁塗装、床補修、照明器具・電力量計更新等
(設備投資 710,000円 大規模修繕費 160,000円 合計 870,000円)
- c 地階B8号室等 床・壁・天井補修、塗装、ガラス・ブラインド取替、エアコン・換気扇更新、照明器具取替
(設備投資 299,000円 大規模修繕費 709,900円 合計 1,008,900円)
- d 地階B13号室 床・壁・天井補修、塗装、ブラインド取替、エアコン更新、照明器具・電力量計・スイッチ取替等
(設備投資 802,000円 大規模修繕費 953,800円 合計 1,755,800円)

ウ エアコン更新工事

老朽化したエアコン(A会議室2台、B会議室2台、3号室1台、B11号室1台)を更新した。

(設備投資 2,080,000円 大規模修繕費 120,000円 合計 2,200,000円)

エ 照明器具等取替工事

8号室、11号室、B9号室、B11号室及びB27号室の蛍光灯をLEDに更新するとともに、1階東側の廊下及び東側階段の照明器具を照度の高い器具に更新した。さらにB会議室の配線をやり替え、照明用スイッチを増設した。

(設備投資 911,000円 大規模修繕費 104,300円 合計 1,015,300円)

オ 玄関自動ドア駆動装置取替工事

玄関自動ドアの駆動装置が老朽化等により開閉不良を起こしたため、取り替えた。

(大規模修繕費 539,000円)

カ 次年度以降に繰り延べた工事

次の工事は、次年度以降に繰り延べた。

a 地階東側北廊下及び西側階段天井造設工事

2024年度に実施する地階東書庫の改修工事と一体的に施工することが経済的かつ合理的であるため

b 本館屋上防水工事

共同管理しているマンハイム鴨川管理組合との協議の結果、工事内容を再検討することとなったため

(2) 地階旧 J S T 研究室群の改修工事

科学技術振興事業団（後の科学技術振興機構（j S T）が1999年に水槽室等として整備し、退居後長年空室となっていた地階の研究室群をリージョナルフィッシュ株式会社がその費用負担で改修した。

ア 改修した研究室

B 2 3 号室、B 2 4 号室、B 2 8 号室、B 2 8 - 1 号室、B 2 8 - 2 号室、B 2 9 号室、B 2 9 - 1 号室

イ 改修工事の内容

a 建築工事

- ・空調室外機置場の造設
- ・倉庫の床改修、外部ドア設置
- ・建具調整、壁・ドア等の塗装、床洗浄・ワックスがけ

b 設備工事

- ・電源工事（配線、分電盤、電力量計の取り付け等）
- ・照明器具の更新
- ・エアコン・換気設備の更新
- ・排水設備の補修
- ・既設空調設備等の撤去 等

(3) 修繕工事

- ・消防用設備修繕 (23, 100 円)
- ・ドア修繕 (6 件、131, 340 円)

(4) 保守管理

トイレ・床清掃等の日常的な保守管理のほか、次の特別作業を行った。

- ・室名札の更新 (125, 840 円)

IV センターの運営

1 センターの概要（2024年3月31日現在）

(1) 沿革

- 1942年12月28日 財団法人京都技術科学館として設立
- 1960年12月27日 財団法人近畿地方発明センターに改組
- 2012年 4月 1日 公益財団法人京都技術科学センターに改組

(2) 組織

- 評議員 12名
- 役員 14名（理事12名 監事2名）
- 委員 研究助成選考委員会委員 6名
- テクノ愛実行委員会委員 8名
- 同 選考委員会委員 13名
- 事務局 常務理事兼事務局長1名、 参事2名

2 理事会の開催状況

開催	議題	備考
2023年度 第1回定時理事会 2023年5月30日	I 決議事項 1 2022年度事業報告の承認の件 2 2022年度決算の承認の件 3 2023年度定時評議員会の招集の件 II 報告事項 1 業務実績について 2 建物賃貸借契約者の異動状況について 3 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について	Web会議
2023年度 第2回定時理事会 2024年3月21日	I 決議事項 1 長期ビジョンの第2期実施計画の決定の件 2 2024年度事業計画書の承認の件 3 2024年度収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類の承認の件 4 2024年度研究開発助成対象者等の決定の件 II 報告事項 1 建物賃貸借契約者の異動状況について 2 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告について	Web会議

3 評議員会の開催状況

開催	議題	備考
2023年度 定時評議員会 2023年6月20日	I 決議事項 1 評議員の選任の件 2 役員の選任の件 3 2022年度決算の承認の件 II 報告事項 1 業務実績について 2 2022年度事業報告について 3 建物賃貸借契約者の異動状況について	Web会議

4 監事監査

開催	内容	備考
2023年5月16日	2022年度事業報告及び決算の監査	

5 長期ビジョンの第2期実施計画の策定

当センターでは、2018年5月に、今後20年間の取組方向を定めた長期ビジョンを決定。さらに2019年3月に、最初の5年間の取組内容を定めた第1期実施計画を策定し、これに基づき取組を進めてきたが、計画期間が満了するに当たり、取組の到達点を踏まえ、第2期実施計画（計画期間：2024年度～2028年度）を下表の審議を経て策定した。

第2期実施計画の項目は、次のとおり。

- ① 第2期実施計画の計画期間
- ② 公益目的事業の見直し
- ③ 収益事業
- ④ 建物・設備の改修等
- ⑤ 人員体制

（検討状況）

開催	内容	備考
6月月例会議 2023年6月9日	長期ビジョン及び第1期実施計画のおさらいをした。	
7月月例会議 2023年7月11日	公益目的事業に関し、取組状況を踏まえ、第2期に向けた検討課題について協議した。	
9月月例会議 2023年9月14日	収益事業に関し、未利用資産の有効活用方策について協議した。	
10月月例会議 2023年10月13日	建物・設備の改修計画について協議した。	
11月月例会議 2023年11月7日	公益目的事業に関し、新規事業の在り方について協議した。	
12月月例会議 2023年12月12日	第2期実施計画（素案）について協議した。	
1月月例会議 2024年1月16日	第2期実施計画（修正案）について協議した。	
意見照会 2024年1月24日	第2期実施計画（案）について、役員及び評議員に意見照会した。その結果、3名の役員から11件、7名の評議員から21件の意見が提出された。	
2月月例会議 2024年2月13日	上記意見に対する見解をまとめるとともに、計画案を一部修正し、役員及び評議員にフィードバックした。	
2023年度 第2回定時理事会 2024年3月21日	第2期実施計画（案）を提案し、全員異議なく決定された。	

事業報告の附属明細書

定款第8条第1項第2号に規定する事業報告の附属明細書は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する2023年度事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。